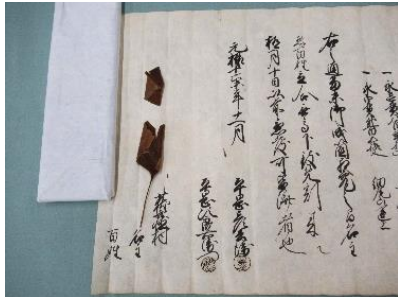


上田市公文書館だより / 第7号

■公文書館から

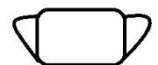


“時” をかけるイチョウの葉っぱ

■公文書館では、行政文書以外であっても、歴史資料保全のため、地域に残された古文書類を可能な限り収集しています。先日、御先祖が名主だったという家の方から江戸時代の年貢割付状（今の納税通知書にあたる？）などの寄贈があり、現在その整理をしています。■この中の元禄年間の割付状からイチョウの葉が出てきました。すっかり干からびて茶色になっていましたが、紛れもなくイチョウでした。いつ誰が入れたのかはわかりません。他の古文書からも時折イチョウの葉が出てくるので少し調べたところ、どうも書状の虫除けのために入れたらしいことがわかりました。■元禄時代に誰かが入れたとしたら、350年余の時を経て、私たちの目前に出てきたこととなります。鬚を結った当時の村役人が、その辺の銀杏の木から葉っぱを取ってこの書状に挟み込んだ姿が目には浮かびます。タイムマシンで過去を垣間見た気分でした。（土屋）

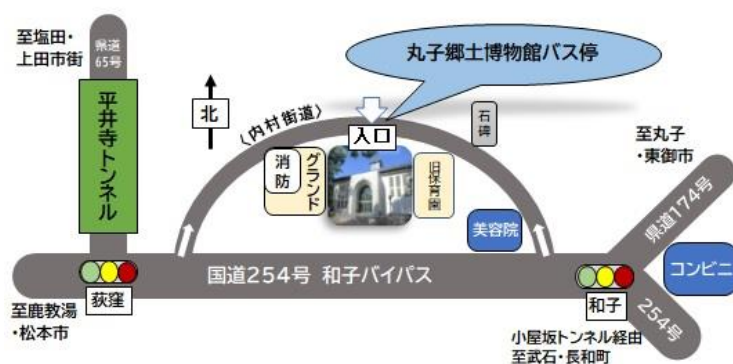
■公文書館の催し ※マスク着用でご参加ください

企画展示「大正時代の上田とスペイン風邪の流行」開催中



- ◎内容：上田市公報（上田橋竣工開通式・上田市民大学）、議会資料（流行性感冒記録）など
- ◎期間：令和2年12月5日（土）～ 令和3年3月14日・公文書館ロビーにて
- ◎説明会：2月7日（日）・3月6日（土）※募集は令和3年1月27日（木）から

■公文書館のご案内



●住所・電話

〒386-0413 上田市東内 2564-1
TEL0268-75-6682 FAX0268-75-6683

●メール

kobunshokan@city.ueda.nagano.jp

●ホームページ

上田市ホームページ内

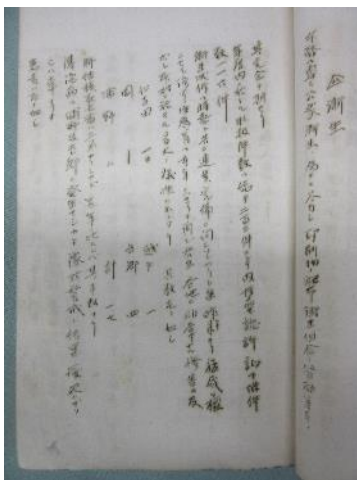
■公文書館所蔵資料の紹介

「上田の流行性感冒 “スペイン風邪”」（大正8年）

●大正8（1919）年の上田市の「事務報告書」には、「衛生」の箇所に「流行性感冒死亡者八十人、男三十八人、女四十二人」との記録があります。この「流行性感冒」とは、当時世界で大流行し、「スペイン風邪」と呼ばれたインフルエンザを指します。●スペイン風邪は、大正7年1月から大正9年12月まで、世界人口のほぼ4分の1に当たる約5億人が感染したとみられています。死者数は約5千万人から1億人程度と推計されています。●日本では大正7年8月に国内で発生し、同年10月から大正8年3月にかけて一回目の大流行が起きました。二回目は大正8年12月から翌年3月まで、三回目は大正9年12月から翌年3月まで流行しました。●当時の日本の人口5,500万人に対して約2,380万人が感染し、約39万人が死亡(内務省統計)しました。特に一回目の感染者・死亡者数が多く、その後減少しました。●小県郡では、武石村・浦里村・中塩田村に流行性感冒による死亡者の記録があります。武石村では大正7年の事務報告に「十二月中これによる死亡者十余名を算する」との記録があります。●浦里村では「大正九年度事務報告書」に「猛威をほしいままにせん流行性感冒」により「多大の犠牲を出したり」と記し、仁古田10人、越戸1人、当郷4人、浦野2人の合計17名の死亡者が出たことも記しています。●中塩田村では「大正七年事務報告」の「衛生」の箇所に、「流行性感冒の蔓延猖獗(まんえんしょうけつ)を見」とあり、20余名の死亡者が出たと記しています。●県では、大正9年10月の「郡市長会議事項」の中で「悪性感冒予防に関する件」として、「隔離・消毒・マスク・うがいや集会禁止等、極力流行・伝染を防止する」旨、記しています。(倉澤)

区	流行性脳脊髄膜炎	流行性感冒	死亡者	男	女
質布理里亞	七	五	七	三	四
ハラチブス	五	八	五	三	二
...
合計	707

上田市の流行性感冒記録文書



浦里村の流行性感冒記録文書

■公文書館の利用

※公文書館は入場無料、郷土博物館展示室は有料（大人100円）

- **資料検索**：目録検索システムをご利用ください。
- **閲覧申込**：所定用紙でお申込みください。一度に5点まで申込みます。メールやファックスの申込みも可
- **資料閲覧**：個人情報等の審査終了後、館内閲覧室でご覧ください。館外への貸出しは行いません。



※審査に時間を要する場合があります。個人情報が含まれる資料は閲覧できない場合があります。目録検索システムの利用・閲覧申込書ダウンロードは上田市ホームページ内の公文書館ページからどうぞ。